

令和2年4月22日

令和2年第1回臨時会を終えて（談話）

東京都議会自由民主党 幹事長 鈴木 章浩

小池知事の召集により開会された、第二回臨時会は本日終了しました。

本臨時会は、緊急事態宣言下での、都の新型コロナウイルス対策への評価、今回編成された補正予算に対する評価及び今後の対応方針等について、我が党は切迫した危機感を持って審議いたしました。

はじめに、新型コロナウイルスに感染してお亡くなりになった方々のご冥福と、今、病と闘っている多くの皆さんの一日も早い回復を心からお祈り申し上げます。

これまで我が党は、国、政権与党、都知事、議長等宛てに、計20回以上にわたり果敢に緊急要望を行いました。現時点での感染症収束時期は不透明ですが、このまま手を拱いて長期化すれば、倒産や失業が相次ぎ、経済の地盤沈下、治安の悪化など都民生活への更なる影響は計り知れません。

従って、新型コロナウイルス感染症の早期終息を目指すとともに、長期化も見据えた総合的施策の展開も不可欠です。我が党は、こうした視点に立って知事への政策提言を精力的に行いました。

まず、補正予算案についてです。

4月7日、政府が緊急事態宣言を発出してから16日が経過しました。自粛要請がいつまで続くのか、すべての都民は不安の中で、日々の生活を送っています。

懸命に感染拡大防止への努力を続けている都民にとって、補正予算額がリーマンショックの時より大きいか少ない、そのようなことは全く意味がありません。

予算額の大きさが、対策の有効性を担保するのではなく、対策の中身が今の都民ニーズにどれだけマッチしているかが重要です。そのためには、医療従事者への支援、軽症者への持続可能な受入れ体制、検査体制の拡充、オンライン診察の導入、保健所行政の総合調整、複合災害発生時の対応などについて、具体的かつ現場目線に立った提言を行いました。

次に、都民が一致団結し、この難局を乗り越えていくためには、都の取組の方向性と対策の必要性を十分に理解頂くことが重要です。

「ロックダウンだ！」と、恐怖心を煽るのではなく、冷静に事態を受けとめ、合理的かつ効果的な対策を提案し、理解を得ることが必要です。危機の実態を正しく把握し、危機から脱出するための手立てとともに、その間の苦難をどう乗り越え、危機が過ぎ去った後、どのように立ち直っていくのか、その大きな方向性を都民に示すことが都知事の重要な役割です。いたずらに都民の不安や混乱を煽るだけでは、この事態を乗り越えていくことは到底困難です。

また、制度設計もないまま「感染拡大防止協力金」を支給すると突如発表し、協力金がどう交付されるのか条件や手続き等の説明がないまま、結局多くの事業者を混乱に陥れました。緊急時であればあるほど、周到に準備し迅速に分かりやすく、具体的に都民に伝えるべきことを強く指摘しました。

最後に、都の行財政運営の方針転換についてです。

今後、都のコロナウイルス対策は多方面に大きな影響を与えていきます。令和2年度予算の修正はもとより、都の財政基盤の健全性を保ちながら、大胆な財政投資を行うなど、思い切った対応が求められていきます。長期戦を見据えた財政調整基金の更なる活用を早急に検討するとともに、都債の活用も視野に入れ、幅広く大胆な施策を講じられる財源を確保するよう求めました。

また、都独自で出来る財源捻出の努力を最大限に講じた上で、いわゆる偏在是正措置による都収入からの拠出を一定期間据え置くよう、区市町村とともに国に強く要請するよう提言しました。

なお、昨日議会運営委員会で副知事に関する人事案件が唐突に提案されました。人事案件は議会承認事項の重要案件の一つです。執行機関の実質上の責任者である副知事の就退任に関する議案が事前の説明もないまま、議運に唐突に提案されることは議会軽視の謗りを逃れられません。

我が党を含む主要会派からの指摘により取り下げになりましたが、小池知事には、これまでも再三にわたり二元代表制を遵守し都政の私物化を慎むよう指摘してきましたが、改めて自戒するよう強く要請するものです。

我々都議会自民党は、この難局を都民とともに乗り越え、都政を前に進めるため、今後も建設的な政策提言、健全かつ実効性ある財政運営の確立、都民生活の安全安心の確保等に全力を傾けていくことをお約束し、知事提出の全議案に賛成いたしました。